

第3回榑葉町職員不祥事の 再発防止に関する 第三者委員会 説明資料

日時：令和4年6月29日（水）

午前10時00分～

場所：榑葉町コミュニティセンター大会議室

1. 委員から頂いた主なご意見ご質問①

(1) 土地改良区・保全会について

- ・不祥事を起こした職員が問題であるが、団体の役員によるチェック機能が不十分だった。
- ・チェック機能の仕組みはあったが、形骸化し、適正に機能していなかった。

(2) 人事管理について

- ・社会人枠採用が問題ではなく、有効活用すべき。問題はどのような人物を採用するか。
- ・内部研修、外部研修を行い、定期的に職場の体質改善を行うことが重要。
- ・公務員とは公共サービスであるという認識が前提
- ・体制の形骸化は必ずある。定期的な事務改善、意識改革が必要。
- ・利害関係者との接触規制等は、町の状況に即した内容にしないと意味が無い。
- ・金融機関との人事交流やホテル業界の研修等、民間の組織論は参考になる。
- ・職員が自発的に提案できる仕組みは職場全体の意識向上に繋がる。

1. 委員から頂いた主なご意見ご質問②

(3) 入札制度について

- ・入札の制度論と設計価格の漏洩は別の問題
- ・予定価格の事前公表も弊害はある。制度変更＝問題解決とはならない。
- ・地域の担い手となる地元業者育成の観点から、条件付き一般競争入札の活用は有効。
- ・一般競争入札制度も多様。県や先進自治体の例が参考になる。

(4) 不祥事が起こりにくい仕組みづくりについて

- ・多数の目で確認する、チームとして仕事する仕組みづくりが大事
- ・職場の風通しが良くなると、リスクも減る。
- ・倫理観やモラル、コンプライアンスの意識をいかに高めるかが重要。
- ・万が一不祥事が起こっても、早期に発見できる仕組みが必要
- ・職員からの意見吸い上げ、ハラスメント相談窓口などの環境整備

(5) その他

- ・年齢層や職場環境等、不祥事3件に共通する原因があるのでは。

2. 第1回、第2回会議を踏まえた整理

【ステップ1】

不祥事発生からの町による調査、第三者委員会による検証により、不祥事の背景にあると考えられる問題点の確認・整理を行った。



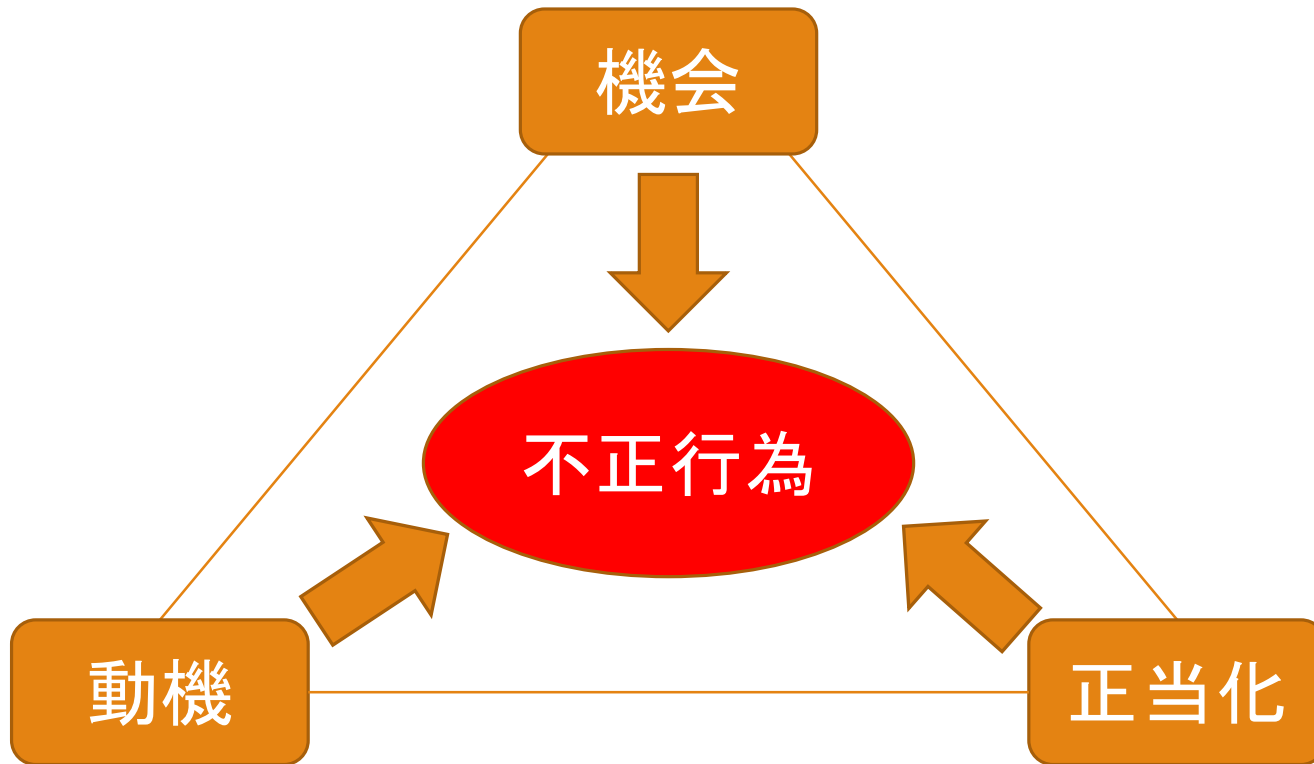
【ステップ2】

改めて、問題点の全体整理・再発防止策の検討を行う。



「不正のトライアングル」による整理検討

2. 第1回、第2回会議を踏まえた整理 「不正のトライアングル」による整理・検討①



不正のトライアングル

- ・米国の犯罪学者ドナルド・R・クレッシーが提唱し、会計学者のW・スティーブ・アルブレヒトがモデル化した。
- ・「動機・機会・正当化」の3つが揃うと不正が発生するため、これを排除することが不正対策になるという理論。
- ・自治体含む組織の不正行為の原因分析や対策の検討際によく活用されている。

2. 第1回、第2回会議を踏まえた整理 「不正のトライアングル」による整理・検討②

	①動機	②機会	③正当化
事件1 (公金横領)	・金銭上の問題があった。	<ul style="list-style-type: none"> ・他団体への派遣であり、町のチェック機能が働いていなかった。 ・即戦力としての社会人枠採用であり、職場内での信頼が厚かった。 ・派遣先団体の監査が適切に行われていなかった。 ・通帳と公印の管理を元職員1名が行っていた。 ・補助金のスキーム上、通帳に残金があっても繰越しが出来た。 ・日中銀行へ行くことに他の職員が何も言わなかった。 	・横領することへの罪の意識が薄かった。
【問題点】	<ul style="list-style-type: none"> ◆日頃の職員の状態把握が不十分 ◆採用時の人物背景の確認が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> ◆町と他団体それぞれのチェック機能欠如 ◆公金管理体制の甘さ ◆自浄機能が薄い組織風土 ◆関連団体に対する町の指導体制の不明確さ 	◆倫理観、モラルの欠如

2. 第1回、第2回会議を踏まえた整理 「不正のトライアングル」による整理・検討③

	①動機	②機会	③正当化
事件2 (官製談合)	・業者との友人関係を築きたかった、失いたくなかった。	・役場のサーバー上から全課の入札案件の情報を誰でも閲覧可能だった。 ・業者との交友関係について、知っていても他の職員が何も言わなかった。	・設計価格を漏洩することに罪の意識が薄かった。
【問題点】	◆業者との不適切な交友関係	◆情報管理体制の甘さ ◆自浄機能が薄い組織風土	◆倫理観、モラルの欠如
	①動機	②機会	③正当化
事件3 (無免許運転)	・免許証紛失に伴う再発行手続きを先送りしていた。	・役場内での免許証有効期限の確認の際、免許証の写しまで求められなかった。	・免許証の紛失、有効期限切れでも特段支障無かった。
【問題点】	◆問題意識の欠如	◆組織としてのチェック体制の甘さ	◆倫理観、モラルの欠如

2. 第1回、第2回会議を踏まえた整理 「不正のトライアングル」による整理・検討④

【確認された問題点＝不祥事の原因】

	①動機	②機会	③正当化
事件1 (公金横領)	<ul style="list-style-type: none"> ◆日頃の職員の状態把握が不十分 ◆採用時の人物背景の確認が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> ◆町と他団体それぞれのチェック機能欠如 ◆公金管理体制の甘さ ◆自浄機能が薄い組織風土 ◆関連団体に対する町の指導体制の不明確さ 	<ul style="list-style-type: none"> ◆倫理観、モラルの欠如
事件2 (官製談合)	<ul style="list-style-type: none"> ◆業者との不適切な交友関係 	<ul style="list-style-type: none"> ◆情報管理体制の甘さ ◆自浄機能が薄い組織風土 	<ul style="list-style-type: none"> ◆倫理観、モラルの欠如
事件3 (無免許運転)	<ul style="list-style-type: none"> ◆問題意識の欠如 	<ul style="list-style-type: none"> ◆組織としてのチェック体制の甘さ 	<ul style="list-style-type: none"> ◆倫理観、モラルの欠如

上記原因の解決

【必須】



潜在的な原因の解決

(ハラスメント等)



不祥事の再発防止

3. 再発防止策の検討

- 今回発生した不祥事3件の直接的な原因となった問題点について、求められること【目的】を整理し、それに対応する再発防止策【手法】を検討する。
- また、他自治体の不祥事や事務処理ミス等を参考にしながら、本町においても不祥事に繋がりそうな問題点についても整理し、上記と併せて再発防止策の検討まで行う。

※再発防止策については資料2、具体例については資料3
を参照

4. 倫理規程の検討

- 今回の不祥事3件全てに共通している事項が、「倫理観、モラルの欠如」
- 事件2(官製談合)の公判において、裁判官からは以下の指摘

- ・被告は主導的立場では無いが、公務員としての自覚を持ち、公平性・廉潔性を維持していれば犯行は起こりようが無く、被告の果たした役割は重要
- ・「友人を助けたい」ということが動機だが、そもそも事業者と交友関係を築くべきではなく、真に友人であれば協力すべきでは無かった。

➡ 倫理規程の策定と、徹底した実践が必要

※倫理規程策定に当たる考え方は資料4参照

5. 報告書の構成案

- これまでの会議踏まえ、最終的に第三者委員会から町へ提出する報告書の構成案を検討する。

※最終報告書の構成案は資料5参照

6. 今後のスケジュールと進め方

令和4年4月20日	第1回第三者委員会	委嘱状交付、町からの諮問、不祥事に係る現状報告
5月27日	第2回第三者委員会	・新たな不祥事の発生と問題点の整理 ・第1回会議を踏まえた状況の整理、問題点の深堀
6月29日	第3回第三者委員会	再発防止策の検討
7月下旬	第4回第三者委員会	全体的な整理と報告書案の検討
8月中～下旬	第5回第三者委員会	町への答申